

先生が片づけて待つことにした  
“その場を知らない第三者の  
大人でも、落ちているおもちゃや  
をどこにしまえばいいのかが分  
かる様な環境設定にしてみた”  
“子ども達の発達や興味関心と



環境が子どもの発達を  
促していきます

先日ある園の先生に「どうしたら子ども達が片づけるようになるの?」とご相談がありました。4月から2か月、子どもが自ら片づけられる環境を用意するには…と環境を整えたものの一向に片づけられる様子が見られません。そこで熊本の城山保育園様にお伺いさせて頂いた際にお聞きしました。城山保育園様でも旧園舎から新園舎へ移る時の仮園舎になった時、子ども達が急に片づけられなくなり、各コーナーは泥棒が入ったかのような荒れ具合だったそうです。そこで立ち返ったのは子ども達がまず、新しいレイ

関係ないおもちゃになつていなかに注意した」という事でした。すると次第に片づけられるようになり、自分達の作りかけのおもちゃ以外はちゃんと綺麗に片づけられるようになったそうです。お聞きした話をそのまますぐにお悩みの園様へお伝えすると、まるで霧が晴れたかのような声で感謝の言葉を頂き、実践へと変えて行かれました。「今まで沢山学ばせて頂いたので、こうやってお役に立てることが嬉しい」と仰る城山保育園の豊田先生のように、恩送りの生き方を私たちも大切にしていきたいと思います。

東京都江戸川区に拠るわんぱくSMILE松島園様にお伺いしました。園長の高田先生は、技術や能力よりも職員の「心」を大切にしており、そんな園様が新たに採用したのは、いわゆる「障がい者」と呼ばれる女性でした。

高田先生によると、彼女には「どうしても保育園に勤めたい」と言う気持ちがありましたが、学校の先生からは「保育園は、難しいと思いますよ」と決めつけられていたのだそうです。それでも、ご両親は18年間彼女を育ててきて、何とか彼女の思いを受け入れあげたいと思い、区内の保育園にお願いしてまわりました。が、障がい者ということから話を聴いてもらつとも難しかったそうです。そんな中、高田先生と出会い、「それだけ強い気持ちがあるなら、ぜひ実習で一度来ませんか?」と話が進

実際に実習に来てもらうと、困難はちょっとしたことくらいで、むしろ子ども達に他の先生方もプラスになると、彼女の成長ぶりに学校の先生も含め、みな驚いているとのことです。「彼女を採用して改めて思うのは、人が育つには環境がとても大切だということ」だと高田先生は仰います。ご両親や先生方の寄り添いに裏付けされているからこそ、そのお言葉の深さを感じ、感謝の意を込めて話を終らせてもらいました。

前号に続き、長崎県立保育研修会について西崎保園の水田先生へお聞きしました。

研修会には他県からの参  
もあり、実践を始めたばかりの園、既に実践している園など様々。研修はまるで異年  
保育のように、少し先の姿  
見てお互いに学びあつてい  
そうです。

水田先生は「公開保育後、  
学者へアンケートをお願い  
ています。褒めて頂けると嬉  
いですが、もっと厳しいこと  
書いてもらえることを望ん  
います。」とお互いの向上の  
ためには厳しいことも必要と  
います。また、現場の先生に

じ 育 て る 前に次はこんなことやつ  
寝る前に次はこんなことやつ  
てみよう！と思うと明日が待  
ち遠くなる。」と自園の変化  
について楽しそうに話される  
姿に引き込まれました。

お話を伺っているとプロジェ  
クトの柱の一つであるブレゼ  
ンカ向上は、今後長崎県の先  
生方が全国各地へ赴き、見守  
る保育を発信していく推進力  
になっていくよう感じました。  
地域全体で実践を発展・  
深化している長崎県の研修会  
のように、私たちも会社とい  
う枠を越え実践を深め発信し  
ていきたいと思います。

恩送り

# 竹取新聞

株式会社 カグヤ  
東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング  
2号館10階



第71版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

10年目の勉強会を開催！

